

秋葉区生活交通改善プラン 課題整理  
 (秋葉区自治協議会 第2部会)

秋葉区の生活交通に関する現状と課題

現状	課題
<p>●公共交通空白地域に対するこれまでの区バス・住民バスの実態から運行継続や増便は不可能と思う。</p> <p>バスを利用したいと思う人は介護を必要とする方ではなく、自家用車での通勤が不可能な方や運転免許証が無い方の通学や通勤、そして買い物ではないか。</p> <p>そう思うと新津駅から長岡駅間の普通列車のダイヤが少なく、駅間距離も長く、最寄り駅には十分な駐輪や駐車場が確保されているか。</p> <p>また、介護を必要とする方の通院は介護者がサラリーマンである場合、休暇が取りやすい職場環境か。</p>	<p>●以下の課題解決が必要と思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅間距離が3 km を超える区間に駅を設けられないか。</li> <li>・駅の無料駐輪・駐車場の整備拡大</li> <li>・乗合タクシーの運行（タクシー会社による運行、ボランティアによる運行、自動車・燃料等は区からの給付によるコミ協での運行）</li> <li>・会社の介護休暇等就業規則の改正</li> <li>・介護休暇の新設</li> <li>・フレックス勤務の導入（コアタイムレス）</li> </ul>
<p>●急速に進む高齢化。マイカー利用の高齢者は、免許証返納のタイミングを計っているが、想いとは裏腹に、通院や日常生活で必要不可欠な交通手段になっている。</p>	<p>●現在、マイカー利用者がどこに出かけているか また、どこに行きたいかの調査が必要である。(駅・区役所・病院・商業施設・スポーツ施設・美術館・コミセン・温泉など)</p> <p>その上で、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区内周遊バスを頻繁に運行する</li> <li>・目的地別バスを運行する</li> </ul> <p>いずれも、できるだけ安い料金で運行できたら良い。</p> <p>新聞に、「高齢者が運転をやめたら要介護になる可能性が2倍になる。移動の手段を失うと活動量が減り健康度が下がる」とあった。自動車の運転をしなくても移動がしやすいまちづくりを急ぐべきである。</p>

<p>●現在は、自動車を運転していても、次第に公共交通に頼らざるを得ない高齢者が増える状況が見込まれる。</p> <p>しかしながら、バス路線は減便や路線の廃止などサービスの低下を招き、さらに利用者が減少するという負の連鎖が続いている。</p> <p>満日地区のバス停留所は超高齢者にとって安全性や体力面から問題があるかもしれせん。</p> <p>H25 年度に実施した満日・大蔵地域でのデマンドタクシー社会実験の収支率は 16.8% で運行回数 50 回（運行日 98 日）であり、現時点では、空白地域に公共交通が入り込む魅力を見出すことができない結果となった。（秋葉区生活交通改善プラン）</p>	<p>●マイカーが無くては生活がしづらい上、運転免許を返納した場合に高齢者などが不便を強いられている。このような地域でも日常生活に必要な移動が行えるよう、住民バス等制度を普及する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区内移動及び市中心部への移動に関する利便性の向上</li> <li>・区民の公共交通に対する意識不足</li> <li>・公共交通空白・不便地域の最小化</li> </ul> <p>生活交通には多くの種類があり、それぞれ異なる特徴を持っている。地域の特性にあわせて、最適な輸送形態（コミュニティバス、デマンド交通など）を選択する。</p> <p>地域の特性や住民のニーズにあった必要十分な輸送形態とネットワークをしっかりと見極める。</p>
<p>●現在も生活交通空白地域は多く存在することは明らかである。従って、「年齢を問わず安心・安全な市民生活を営むために、このような地域への公共交通手段の確保は必須である。」とする現行プランは、現在も続く課題と考える。</p> <p>路線バスも便数の減便、路線変更などがあり、空白地・不便地が増加していると思われる。</p> <p>●「区内 結節点までのアクセスをさらに強化していく必要がある。」とした現行プランには進展が見られない。住民バスを試行している山の手コミュニティ協議会も苦勞していると聞いている。斬新はアイデアがないものか知恵を絞りたい。</p>	<p>●生活交通を考える時、目的を交通弱者救済にするのか、訪問者を含めた地域活性化にするのかで方法が変わると思う。そこら辺も考慮する必要があるように思う。</p>

●下越病院が新津 I C 付近へ移転したことに伴い、区バス沿線に総合病院が立地しないルートとなることを避けるため、H24 年度から区バス路線変更を行い、新津医療センター病院をルートに含め、併せてホームセンターなどの商業施設へのアクセスを可能とし、利便性向上を図ったものの、便数も 7 便と少ないため、まだまだ改善の余地が残る。との現行プランの指摘もまったくである。

●H24 年度の区自治協議会提案事業として開催した「みんなで考えよう秋葉区の公共交通懇談会」において課題となった目的バスの連携可能性について、区内の医療機関である下越病院・新津医療センター病院及び新潟薬科大学、社会福祉協議会などの目的別で運行しているバスの関係者と検討する必要がある。これは、それぞれの運行時刻、経路、乗車規定を分析する価値があると思う。